

2025 年 8 月社長会見



2025 年 8 月 20 日

1. 営業・輸送概況
2. 生成 AI 技術を活用した
画像解析ソリューションの実証実験を開始します
～あらゆる業界に革新を～

詳細

1. 営業・輸送概況

【運輸取扱収入（速報値）】

取扱収入につきましては、7月 は前年比で 105.9%、8月 は17日 までで 109.2% でした。

運輸取扱収入（速報値）

	前年同 日 比			
	収入計	近距離券	中長距離券	定期券
7 月	105.9%	108.6%	106.1%	101.7%
8 月（8/1～17）	109.2%	109.6%	110.0%	103.0%

※実績は直営の速報値。駅などでの取扱高(消費税を含む)を示すものであり、旅行会社での発売分などを除きます。

【新幹線・在来線特急・近畿圏のご利用状況（速報値）】

次に、ご利用状況について申し上げます。山陽新幹線は、7月 が前年比 106%、8月 が17日 までで 108%、近畿圏につきましては、7月 が 107%、8月 が17日 までで 107% となっております。

新幹線・在来線特急・近畿圏のご利用状況（速報値）

	前年同 日 比				
	山陽新幹線	北陸新幹線	在来線特急	近畿圏	
				近距離券発売枚数	自動改札通過人員
7 月	106%	100%	104%	107%	104%
8 月（8/1～17）	108%	101%	111%	107%	103%

※実績は速報値。近畿圏は近距離券発売実績と自動改札通過人員の前年同日比を併記しています。

なおこの期間、地震による津波への対応や線状降水帯による大雨の対応で、安全を確保するために、新幹線や関連線区の運休を行いました。お客様にはご不便をおかけいたしました。今後とも、自然災害の激甚化に備えて、ソフト・ハード対策にしっかりと取り組んでまいりたいと考えております。

さて、大阪・関西万博は閉幕まで残り 2 か月を切りました。万博会期終盤に向けまして、引き続きお客様に安心して利用いただける輸送体制の確保に努力をしまいたいと思います。

万博に合わせまして、4月から6月にかけてJR6社が連携しまして、大阪デスティネーションキャンペーンを開催いたしました。大阪の歴史、文化、食、エンターテインメントなどの豊富な観光資源を活かし、またおもてなしに取り組むなど、大阪・関西万博の機運醸成とともに、大阪への誘客に取り組んでまいりました。

この期間中（4月～6月）は、山陽新幹線のご利用が対前年108%、大阪を発着する5方面の在来線特急を合わせまして対前年113%と前年を大きく上回りまして、多くのお客様に大阪へお越しただけたものと思います。

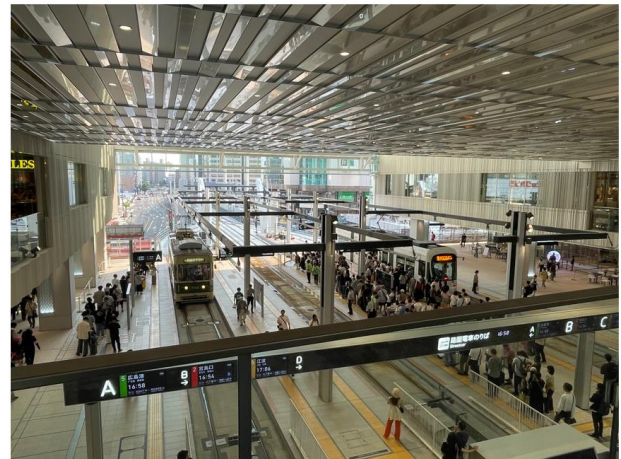
関係者の皆様との連携によりまして、このキャンペーンは、大阪・関西万博の誘客につながる大きな効果があったものと考えております。

広島駅前大橋ルートの開業



8月3日 広島電鉄様の「駅前大橋ルート」が開業

○ 広島駅ビル2階 路面電車のりばの様子



- ・広島市、広島電鉄、当社の3社を中心にまちづくりについて連携し、プロジェクトを推進
- ・全国で初めて路面電車が駅ビル2階に乗り入れ
- ・新幹線や在来線の改札口と同じ広島駅ビル2階での乗り換えができるようになり、利便性が向上

また広島地区の話題でございますが、8月3日に広島電鉄様の「駅前大橋ルート」が開業し、国内で初めて路面電車が高架で駅ビルの2階に乗り入れ、新幹線・在来線と同じフロアで乗り換えが可能となりました。広島駅から市内中心部への移動時間が約4分短縮されるなど、利便性が大きく向上いたしております。私どもが3月に開業させました駅ビルの開業効果も続いておりまして、「駅前大橋ルート」開業後1週間で、広島駅のご利用は対前年114%、一日平均約156,000人のお客様にご利用いただいております。本当にありがたく思っております。

このプロジェクトは、広島市、広島電鉄、JR西日本の3者を中心に、関係者が緊密に連携し周辺のまちづくりの方向性を共有して推進してまいりました。改めて関係者の皆様に深く御礼申し上げたいと思います。

今後とも地域の皆様と私どもJR西日本グループの「つながりの進化」を積み重ねながら、各地において地域の価値を創出し、地域社会の発展に貢献してまいりたいと思います。

2. 生成 AI 技術を活用した画像解析ソリューションの実証実験を開始します ～あらゆる業界に革新を～

次に、生成 AI 技術を活用した画像解析ソリューションの新たな実証実験を開始いたしますので、その内容についてご説明させていただきます。

生成AI技術を活用した画像解析ソリューションの実証実験を開始します



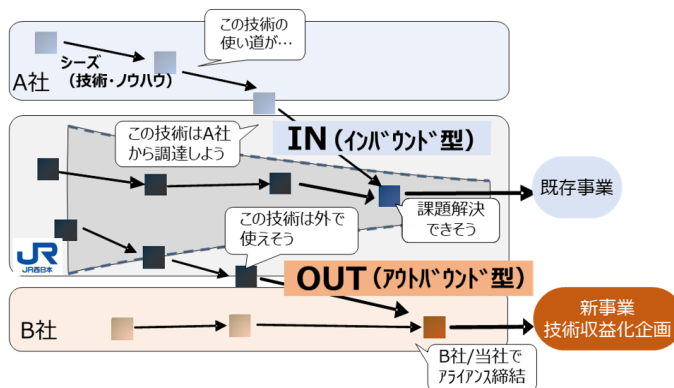
当社におけるオープンイノベーションの考え方

○長期ビジョン2032・中期経営計画2025



新たな価値を創造する企業グループを目指して
様々なパートナーと連携したイノベーションを推進

○オープンイノベーション推進の仕組み



他社の技術を取り入れ、当社の課題解決につなげる

「インバウンド型オープンイノベーション」

当社の技術を活用し、社会やパートナーの皆様の課題解決を目指す

「アウトバウンド型オープンイノベーション」

を両輪で推進

当社は、「長期ビジョン 2032・中期経営計画 2025」の中で、未来社会とその課題を見据え、将来にわたって新たな価値を創造する企業グループへと進化すべく、様々なパートナーの皆様と連携したイノベーションに取り組んでいます。

具体的には2つのパターンがございまして、1つは他の企業の方がお持ちの先進技術を取り入れ、当社の課題解決につなげる「インバウンド型オープンイノベーション」と、そして逆に当社の技術やノウハウを活用し、鉄道の枠を超えて社会やパートナーの皆様のお役に立つことを目指す「アウトバウンド型オープンイノベーション」、この2つの取り組みを軸に、オープンイノベーションを推進しております。

当社におけるオープンイノベーションの事例

○「インバウンド型オープンイノベーション」の事例

他社の先進技術を取り入れ
「湖西線強風予測システム」を開発



大阪ガス様の高解像度気象予測技術を活用

<システム構成イメージ>



○「アウトバウンド型オープンイノベーション」の事例

データアナリティクスチーム主導で
画像解析AI「mitococa（ミトコカ）」を自社開発



製造業や大規模施設などの他業界にも展開

<エスコンフィールドでの活用イメージ>



これまで、「インバウンド型オープンイノベーション」としては、大阪ガス様の高解像度気象予測技術を活用した「湖西線強風予測システム」などを展開してまいりました。

また、「アウトバウンド型オープンイノベーション」の代表的な例としましては、当社が独自に開発した画像解析 AI「mitococa（ミトコカ）」がございます。「mitococa」は、当社の駅の構内における不安全な行動や状況の検知など、お客様の安全・安心を見守ることを目的に開発した技術でございます。現在はその用途を広げ、例えば北海道のエスコンフィールド様のような大規模な施設や製造業など、様々な業界において導入いただいています。

今回用いた汎用技術の概要

VLM（Vision Language Model：大規模視覚言語モデル）

- ・生成AIの一種で、「画像」と「言語」を同時に理解する汎用AIモデル
- ・世界中の画像とその説明文（キャプション）を大量に学習しており、抽象的な問いに対しても画像の文脈を踏まえて判断できる

従来の画像解析AIとの違い

「安全確保のため、脚立作業時に「補助者がいるかどうか」を画像から判定したい」



	従来の画像解析AI	VLM
入力	画像	画像＋言語 +「脚立を支えている人物（補助者）はいるか？」
対象	学習済の人物/物体など	未学習の概念でも広く対応
解析	ある/ない（存在検出）	「何をしているか」「誰がどう関わっているか」（動き・関係性含む）まで対応
判定	・「脚立」「人物」は認識できる ・「補助行為」は動きや状況に依存するため、ラベリング・学習が困難	・手の動きや立ち位置などの関係性から「補助している状態」を文脈的に判断
出力	「人物」が2、「脚立」が1「ある」 ▶ 補助者の有無は不明	「補助者がいる」

従来の画像解析AIの限界

- ・あらかじめ学習した「対象」しか判断できない
- ・シーン（文脈）理解に基づく判断ができない

VLM

- ・“従来の画像解析AIでは学習が難しい行動”も、言葉で問えば柔軟に推定
- ・画像内の対象の関係性や行動の意味を含む“シーン”を理解して判断可能

一方で

- ・映像内のすべてのコマの静止画をVLM推論すると、誤検出やコスト・時間などの負担が増大するという弱点も

今回、画像解析の新たな取り組みとして、画像と言語を同時に理解できる汎用技術でございますが、「ビジョン・ランゲージ・モデル」(VLM) という汎用 AI モデルに、当社が鉄道の安全性向上を通じて培いましたノウハウや、画像解析 AI「mitococa」を組み合わせまして、新たなソリューションを作ってまいりましたのでご紹介いたします。

今回、画像解析に用いる VLM は生成 AI の一種でございますが、“画像”と“言語”を同時に理解することができます。この VLM は、世界中の画像と説明文を大量に学習しておりまして、抽象的な問いに対しても画像の文脈から何が起きているかを判定することが可能でございます。

例えば上記スライドの画像を読み込ませ、脚立作業をしている時に「補助者が居るかどうか？」ということ AI に判定させる場合、従来の画像解析 AI では“脚立”や“人物”を学習によって認識はできるものの、「補助行為」という文脈の判断はできませんでした。一方、VLM は画像内の人物・物体の動きや関係性の文脈を理解し、未学習の概念でも「補助」という状態を判断することができるというものでございます。

一方で、汎用技術の VLM にも弱点がございます。映像に収められた全てのコマの静止画を VLM で推論しますと、誤検出やコスト・時間などの負荷が増大するといった問題が生じます。

生成AI技術を活用した画像解析ソリューションの実証実験を開始します



JR西日本グループもっとつながる。未来が動き出す。

当社が開発したソリューションの特長

前処理～AI推論～結果出力までを一体的に設計し、
実際の“現場”で使いやすく高度なソリューションを構築

① 必要な場面のみを選択し、低負荷かつ高度な解析を実現

② 誰でも使いやすいUI設計（プロンプト入力・結果表示）

映像取得

AI

映像取得

入力

プロンプト入力/選択

前処理（場面抽出）

解析

VLM推論

出力

結果表示

外部連携

結果確認・アクション

「JR西日本だからこそ」のこだわりポイント

○解析の前処理段階で必要な場面だけを切り出すことでVLMの弱点を補い
低負荷（コスト・時間）かつ高度な解析を実現
…実際に現場をもち事業運営を行っているからこそ、実務目線で有用なものとして開発

お客様の安全を守るために開発した「mitococa」を使い、対象・場面にフォーカスすることで
さらに低負荷かつ高度な解析が可能に

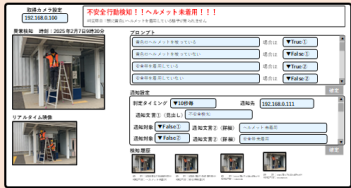
○誰でも使いやすいUI設計（プロンプト入力・結果表示）
…幅広い世代かつ多様な専門分野で活躍する社員が動く現場での活用を想定

【mitococaの活用イメージ】

- ✓ mitococa：前処理として、ピンポイントに重要箇所を切り出し
- ✓ VLM：状況を文章で説明し、次の対応に向けた判断材料（示唆・統計情報）を提供

両者の強みを活かした、新たな解析手法を検討
例：「mitococa」で人物を抽出し、VLMで“年代・性別などの属性を推定”

【UIイメージ】



こうした点をふまえて、私どもの開発にあたりましては、鉄道事業者である当社だからこそ、現場でより使いやすく、かつ安全性にこだわったソリューションを構築いたしました。具体的には、解析の前処理の段階で映像から必要な場面だけを選んで切り出すことで VLM の弱点を補い、コストや時間面で低負荷かつ誤検出を抑えた高度な解析を実現いたします。さらに、お客様の安全を守るために、当社が独自に開発してまいりました「mitococa」を組み合わせることによりまして、解析すべき対象や場면을ピンポイントにフォーカスすることにより、さらに低負荷かつ高度な解析が可能となります。

また、ユーザーに表示されるプロンプト入力、いわゆる指示文章や結果表示において、誰でも使いやすいユーザーインターフェース (UI) を構築いたしました。これらについて、当社は現在特許の出願も行っています。

今回、社内でデモ機の開発に成功いたしましたため、今後、社内外の幅広い業界の皆様と、このソリューションの活用に向けた実証実験を開始してまいります。

ユースケース（１）鉄道の安全安定輸送（建設工事等、沿線作業箇所の自動抽出）

課題

- ✓ 建設工事などの沿線作業は「列車運行に支障がないか」確認が必要
- ▶ 見落としや対応遅れによる安全・安定輸送へのリスク

アプローチ

- ✓ 列車前頭映像をVLMで解析
- ✓ 作業中と推定される場面を自動抽出
- ▶ 社員の確認作業を補助し、安全性向上を図る

デモの様子

プロンプトの例

これは列車の先頭から撮影された画像です。
画像に基づき、近隣で工事が発生しているかどうかを判定してください。
…(省略)…
最終的な回答は、必ず以下の形式で出力してください。
クレーン：（trueまたはfalse）
足場：（trueまたはfalse）

- ✓ 画像単位で対象物（例：クレーン、足場）の有無を表示
- ✓ 対象物が写っているタイミングを抜粋して一覧化

このソリューションの具体的な活用イメージをユースケースに沿って2つご紹介いたします。1つ目は、鉄道の安全性向上につながるユースケースです。映像をご覧ください。（動画再生）

これは、列車の前方カメラ映像を解析したものです。沿線で行われております工事現場を自動で検出しています。今回は「クレーンや足場が映っているか」といった問いをVLMに投げかけ、「クレーンや足場がある」と判断された場面を抽出し、警告しています。あらかじめ「クレーン」や「足場」という対象を学習させていなくても、VLMが視覚と言語の意味を統合的に理解し、工事に該当するシーンを検出できる点が大きな特徴でございます。

従来、社外の方から「線路のそばで工事や作業を行う」との連絡がございました場合、社員が列車に添乗しまして現地の状況を確認していますが、このソリューションによって社員の確認作業を補助することで、鉄道運行のさらなる安全性向上が期待できます。

ユースケース（２）マーケティングへの活用（来店者属性の推定と可視化）

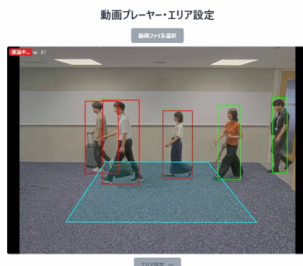
課題

- ✓ 来店者の年代・性別といった属性が把握できず、商品配置や販促施策につながらない
- ▶ 効果的なマーケティングが困難

アップ ローチ

- ✓ 施設内に設置したカメラ映像から、画像解析AI「mitococa」で人物を検出
- ✓ 検出画像をVLMで解析し、属性（性別・年代・携行品など）を推定
- ▶ 接客や販促の判断材料に

デモの様子



プロンプトの例

添付写真の人物の特徴について判定してください。
下記フォーマットに従い、回答は選択肢から選んでください。
「自由記述」と記載しているものは特徴を自由に記述してください。

性別: 男性/女性
服装: (自由記述)
携行品: (自由記述)



性別: 男性
年齢: 成人
服装: ネイビーのポロシャツ、ベージュのチノパン、黒い靴
携行品: トートバッグ

- ✓ 人物ごとに、属性を推定表示
- ✓ 属性ごとに自動で集計・可視化

今後の展望

- ・今年度中に社内外で実証実験に着手
- ・実用性と信頼性を向上させたソリューションで、鉄道事業以外への展開を目指す

その他、ユースケース

- 保護具（ヘルメット、防護服等）の着用状況検知
- 列車標識の傾きやズレ等の異常検知
- 製造ラインでの不良品判定
- 転倒や巻き込まれ等の労災発生検知
- 工作機械の稼働状況モニタリング
(例: 待機/作動の判定)

次に２点目は、マーケティングにおけるユースケースとして、「mitococa」と組み合わせた事例をご紹介します。映像をご覧ください。（動画再生）

これは社員によるデモンストレーションの映像です。「mitococa」により人が写ったシーンを切り出し、VLMがその人物の年代・性別・服装を解析します。解析結果が画面上でどのように可視化されるかをご確認いただければと思います。

たとえば店舗では、来店者の方の年代や性別などの属性の把握ができず、お客様の層に合わせた商品の選定や販売促進の施策に課題を持っておられるケースがあります。このソリューションにより、来店者の属性を解析することで、販売実績データと容易に結び付けられるようになり、効果的なマーケティング施策につなげることが期待できます。

この他にも、ヘルメットなど保護具の着用状況の確認や製造ラインでの不良品の判定など、鉄道に限らず、幅広い分野で活用いただくことが可能と考えております。

今後、今年度内の試作機の実装を経て、社内外の現場において実証を重ねながら、より高い実用性と信頼性を備えたソリューションとして磨き上げてまいります。

引き続き、当社の鉄道現場で培った知見やノウハウ、技術を融合させ、安全性・生産性の向上といった社会課題に挑み、社会全体に役立つソリューションを実装してまいりたいと考えております。私からは以上です。